

経営比較分析表（平成29年度決算）

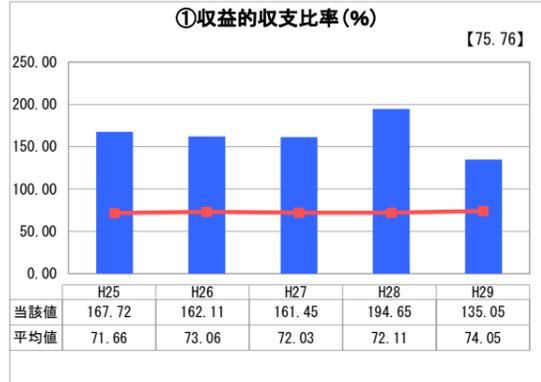
福島県 檜枝岐村

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	100.00	1,900	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
576	390.46	1.48
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
571	0.70	815.71

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



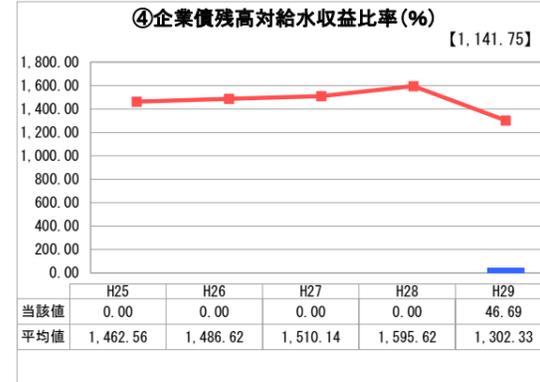
「単年度の収支」



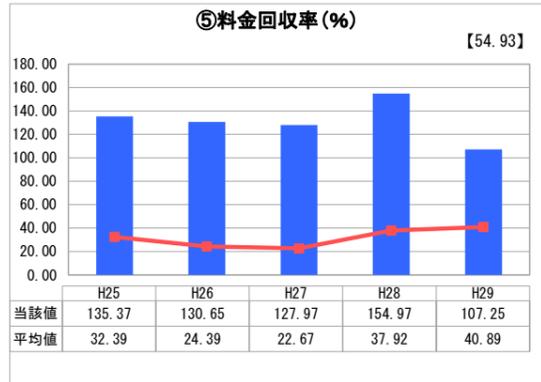
「累積欠損」



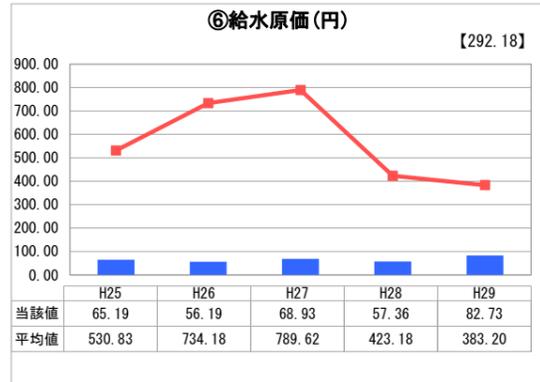
「支払能力」



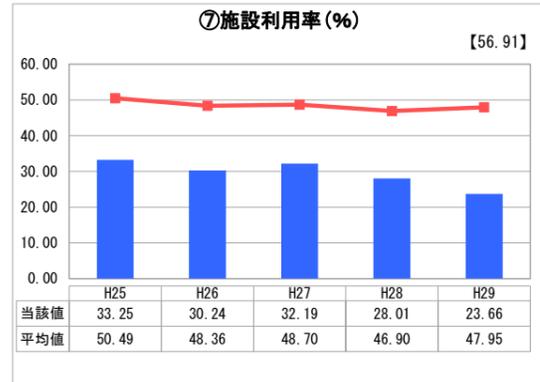
「債務残高」



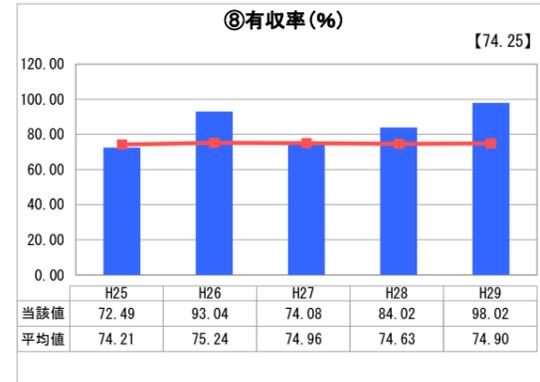
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「供給した配水量の効率性」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率と料金回収率を見ると、類似団体の平均より上で、かつ100%を超えていることが確認できる。これは、簡易水道がポンプアップを使用しない自然流下のため、施設の維持費は安価となり料金収入で支出をカバーできているためである。そのため健全な経営ができていていると考えられる。

給水原価を見ると、類似団体の平均より下で、数倍から10倍程度の差が確認できる。これは、自然流下で配水するため無駄な経費がかからなく、1m³あたりの費用が安価となるためである。こちらも健全な経営ができていていることがわかる。

有収率を見ると70%前後であることが確認できる。100%にならない理由として、村内消火栓や、檜枝岐の舞台にある手水舎等の料金徴収を行っていない箇所があるためである。

2. 老朽化の状況について

昭和60年前後に敷設された水道管のため経年劣化が考えられる。配水施設は配水池と減圧井、水源を観察することで老朽を確認することができる。今後は過機などの高価な機械の老朽化に伴い部品交換等が必要になってくる。計画的な改築を行い、現在の良好な会計を維持できるよう努める。

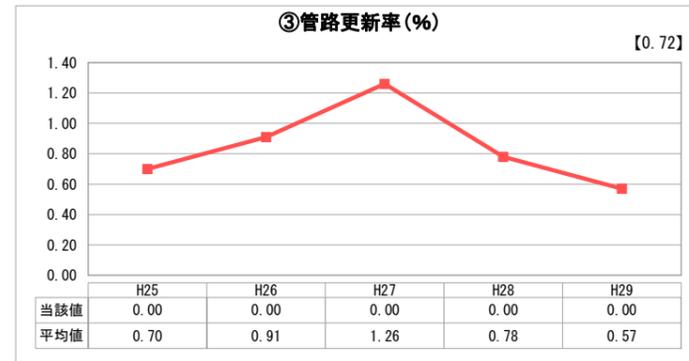
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

全体総括

経営については、現在の健全性・効率性を保ちつつ運営していく必要がある。

水道管の老朽化については、経年劣化による損傷等を予測するのは難しいため、管の材質等を考慮した計画保全、または事後保全として維持していく必要がある。施設については、外見や機器の目視による観察をもとに老朽箇所を修繕していく必要がある。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。